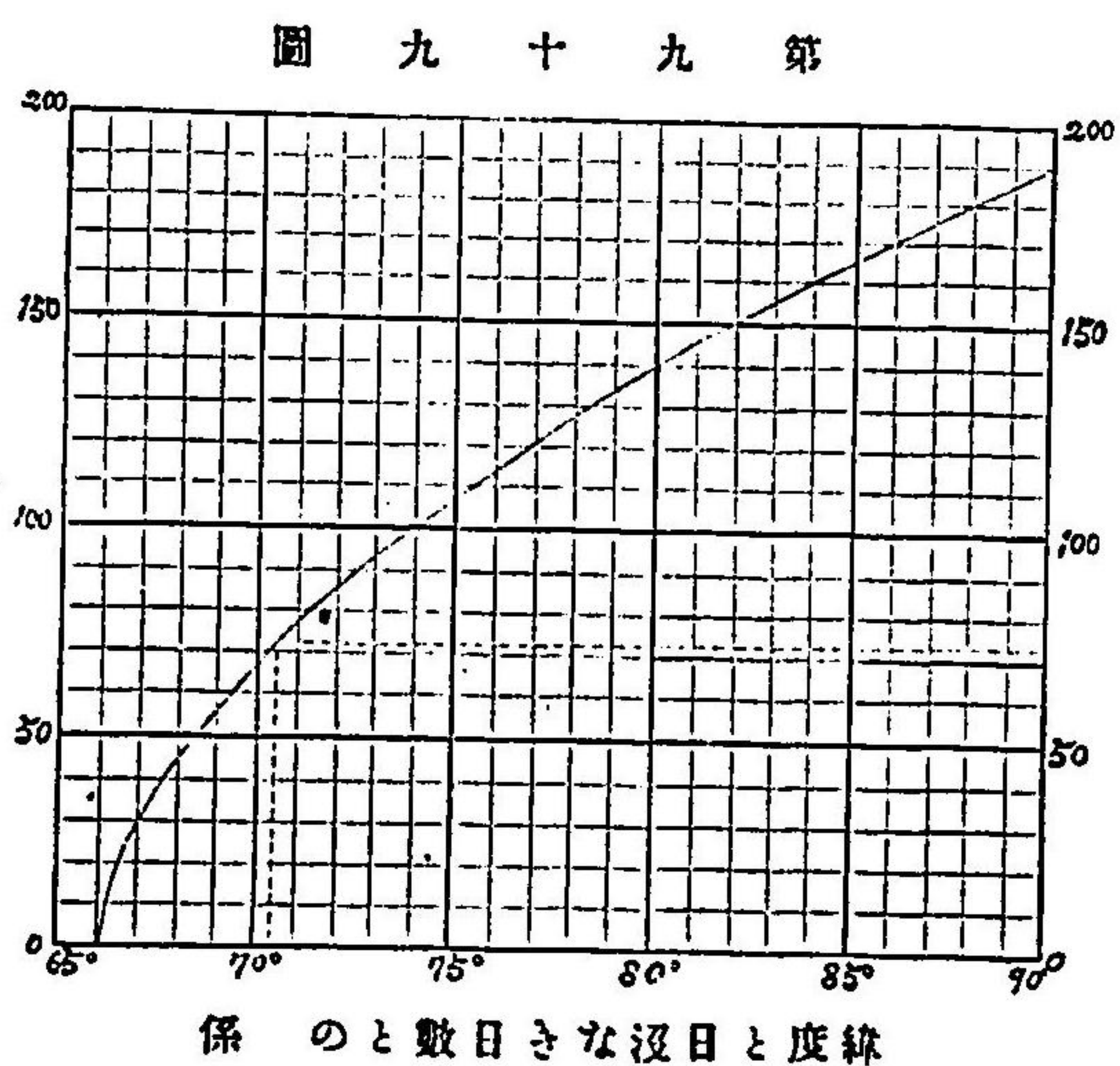


く春分、秋分には其中に在りて此節に於て太陽と北極星との見ゆる方角は



北極星地方に於ける緯度と引き續き日没なき日数とを示す圖(横線に附記せる數字は緯度を表し縦線に附記せる數字は日数を示す例へばハンマーフェスト町は北緯約七十一度弱なるが故に夏季は七十五日間太陽没する事なし北極は九十度に至り百八十六日間日没なし)

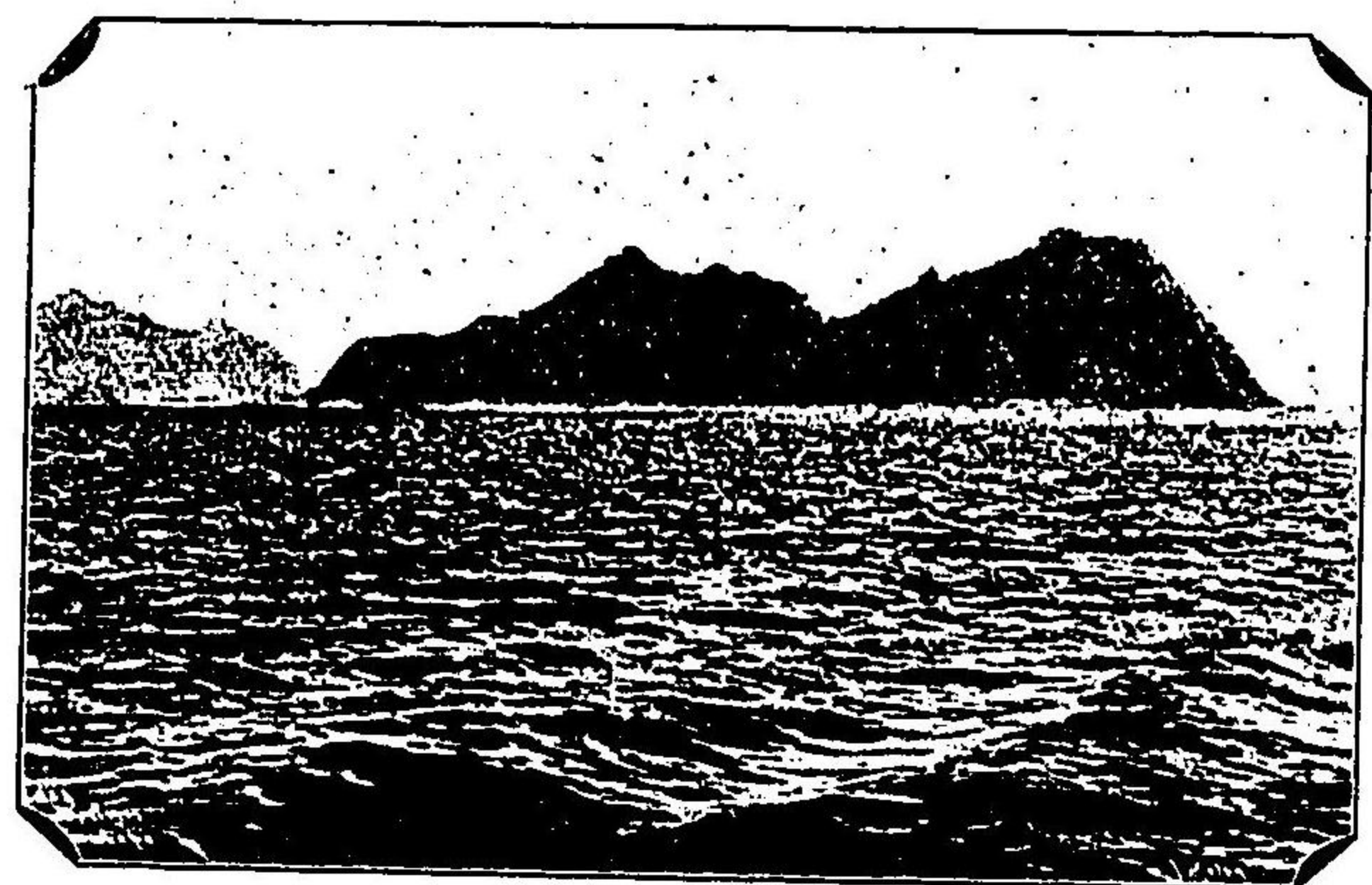
注意 南寒帯地方にありては是と同様にあらす例へば南極にては百七十九日間日没なし其理由は後編に説明す

互に直角をなし夏至には六十六度半に減じ冬至には増して百十三度半と

なる此故に吾人愈々北に進みて北極星益々頂天に近づき其高さ六十六度半の地に到れば夏至の日には太陽恰かもイロ線に沿ふて動くが如く見え夜半にも北方の地平面イに接するのみにて全く没するに至らず冬至の日には太陽恰かもホへ線に沿ふて動くが如く見え正午にも南天へに達するのみにて竟に日出を見ず其の他の季節には或は春の日の長さあり秋の日の短きあるも春分及び秋分の日には太陽恰もハニ線に沿ふて動くが如く見え晝夜平分となる寒帯地方とは一年の内に日出日没の無き日ある處を指すなり

若し更に北の方に進まば進むに従ひ日出及び日没の無き日數多くなるが故に元旦にも日出なく二月三月になりて初日出を見るの地無きにあらず斯る寒帯の地に住みてこそ初日出は眞に芽出度思ひを成すならめ毎日必ず日の出る國に住みては年の始に初日出など言へど單に形式に過ぎずして其實は何の變りもなし

圖 百 第



島 群

北極に到れば夏季六箇月間は日没なく冬季六箇月間は日出なくして一年の内に只一晝夜あるのみ。秋の夜の千夜を一夜になぞらひて千夜しも寝ばやと詠みたりけん昔の人を斯る常開の地に住ましめたらんには絶え間なく降り積もる雪に少しは熱もさめたりけん者を

寒帯地方に入りてより緑の空も曇りそめ行方亂るゝ水鳥も雲霧の内に消え失せて吹き来る風に海も鳴り山なす浪に浮く船の谷間に降る其状は奈落の底に沈むが如く篠を亂して降

圖 一 百 第



寒帯之初日

る雨は陸には車軸や流すらんスワルチゼン(Svarisen)の山嵐しに海漕ぐ船も鳴動し嗚呼ものすごの景色かな

時計の針は進めども晴雨計は退きて何時晴るゝともしらなみに漂ふロフオーレン(Lofoten)の群島は北海遙かに顯はれ太陽は正南の天に輝きて西峽谷(Vindfjorden)に漕ぎ入れば東に大陸の山々高く聳なるラフトスンド(Raftsand)の汀なる

ヂゲルムーレン(Digermulen)に上陸し背面の山に登りて四方を眺むればラフトスンドの海峽は一帶の綾錦海士の家居もかすゝに島嶼波に漂ひゴブラン織

眺望北國第一と稱せらる

(Les Gobelins) に似たるかな左の方は長島(Langø)の嶺嶺き右西南を眺むれば西峡谷の水は滔々として波は悠々たり滾々たる大西洋の水是に續きて其涯を知らず東はいづこ遙かなる大陸の山々は雪の冠氷河の帯御山に登りて宮島の景を見るにも優るなり眺望の佳なる北國第一なりとかや山體は一塊の花崗岩なるらん假頭笠を伏せたるが如き形して頂上には獨逸聯邦皇帝陛下(Kaiser Wilhelm II)の行幸記念碑あり

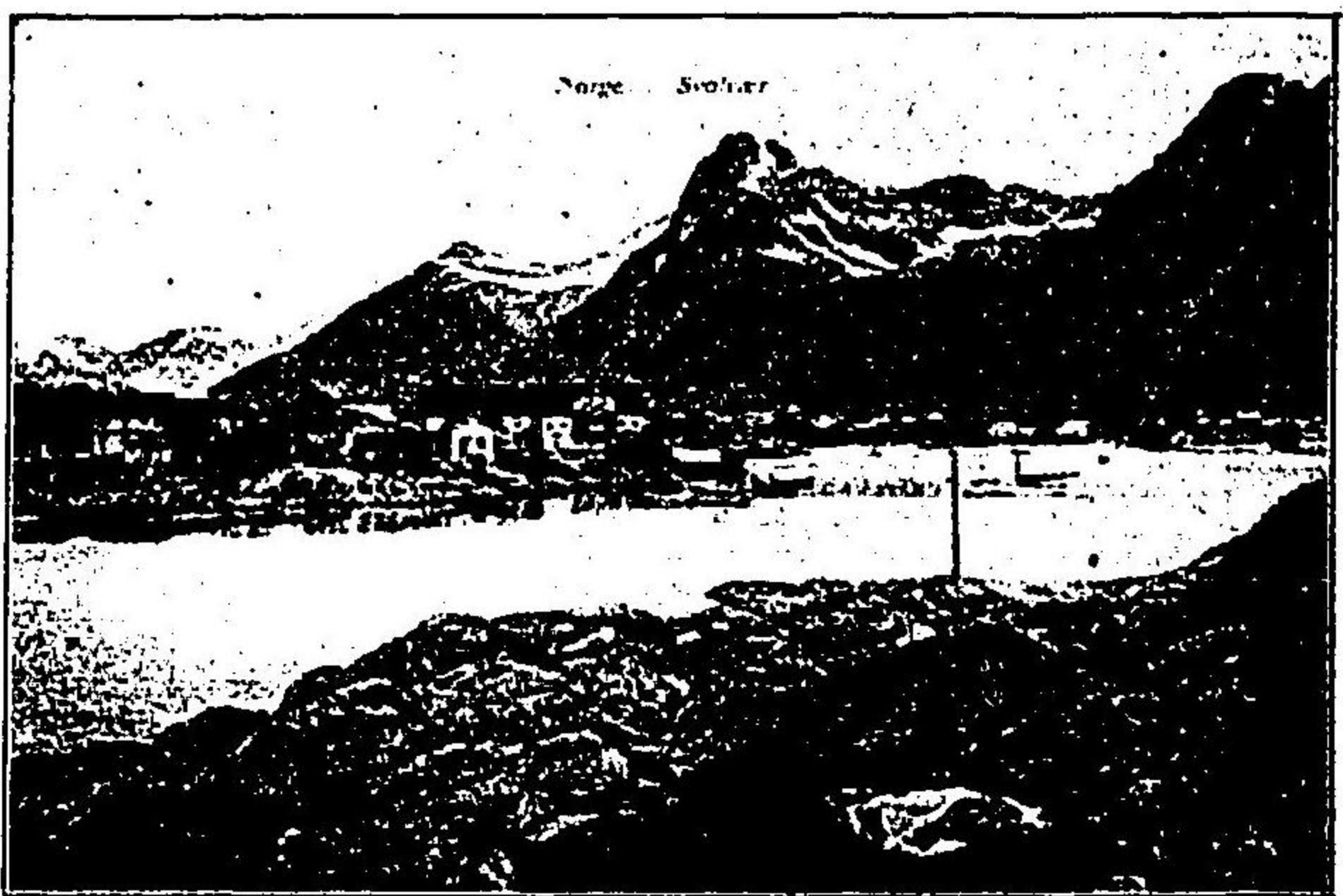
山麓の湿地には幾千年の昔より生ひ茂りたるなるべし生ひては枯れ枯れては生ふる雑草の積もりて丈餘の層をなし今や化して泥炭の類を成す土人之を採掘して天日に乾し燃料となし居たり

十四 世界最北之市街

住めば都

瀬戸内海に
琴鏡たり

第百二圖

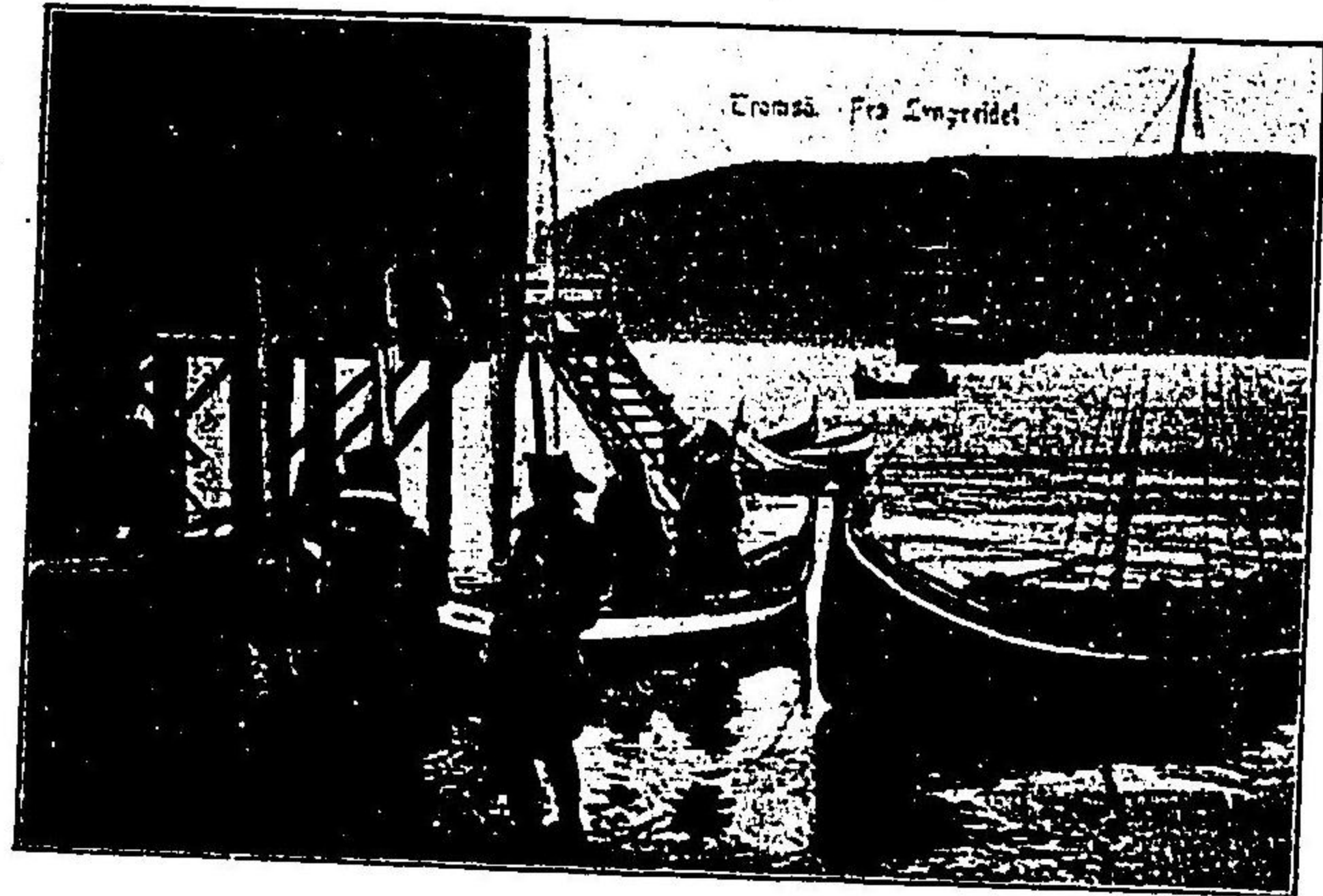


世界最北之市

浦回の波の夜の間にレーディングン(Tallingen)も過ぎたればサラングン(Salangen)の佳景もさらに見えずミエズンド(Mjessund)も後になればチホスタット(Ti-hostad)の里見えて實に音近き海人の家窺の烟も稀ならず左右の島も大陸も概ね草木生ひ茂り波のみか山さへも平かにして露出せる岩角まれなる山の粧ひ、海の景色瀬戸内海に似たるよと某船員の語りしも實にや此人は十一回日本に航せりと乎マランゲン(Manngren)を越え行けば遙に見ゆるミエルデ(Mjeld)の里もかすかに消え失せてトロムスエー(Tromsø)にぞ

陳列せられ
たる日傘

第百三圖



トコロセの陸上

着きにける
島は東西半里、南北二里にも餘るな
るべし北緯六十九度三十八分に位す
る寒地にして盛夏の候にも氣温華氏
の五十度に過ぎず、人口八千餘の市街
其東岸に軒をならべ中學校あり教員
講習所あり幾多の教會堂市内に散在
し博物館には寒帯の魚鳥獸集めざる
なく遙かに東洋の島帝國に是れあり
と知らる、一本の日傘を陳列せり我
未だ日傘と日本帝國と何れ乎歐洲に
於て其名高き乎を知らず古人曰く人
の知らざるを憂へず人に知らるゝの

事なきを愛ふと抑も歐人の愚乎神國人種の恥乎背面の岡陵には樹木繁茂
して二三の住家其中に點在し多く鯨の肋骨を以て門柱となし馴鹿の角を
其頂に飾るを見る

中央に湖水あり水源池となし市内に水道を設く

東の方遙かに大陸を眺むれば山頂概ね圓くして草木なく西の方群島内
に聳ゆる山々は尖りて白雪皚々たり露國と交易の要路に當り殊に乾魚燻
製練などに名あり山林の内に入れば多くの鳥あり鳴き聲鳥に似たるも體
は灰色にて頭と兩翼とは少し黒きのみ女も雪國の者は色白しと乎聞くな
れば四時雪に埋もれ居る寒帯地方に住めば鳥も色白くなるものにやなど
想ひつゝ浦風淋しき深林に何處ともなくさまよへば程近き樹の枝に來り
てばかあゝと鳴くぞ悪くらしき

明れば九日北緯七十度も越え過ぎてシェルベエ(Shervee)の里も近く見え
左右の島山高き處は壯巖岬々として草も生えず苔もむさざるは寒氣強く

世界最北之市街

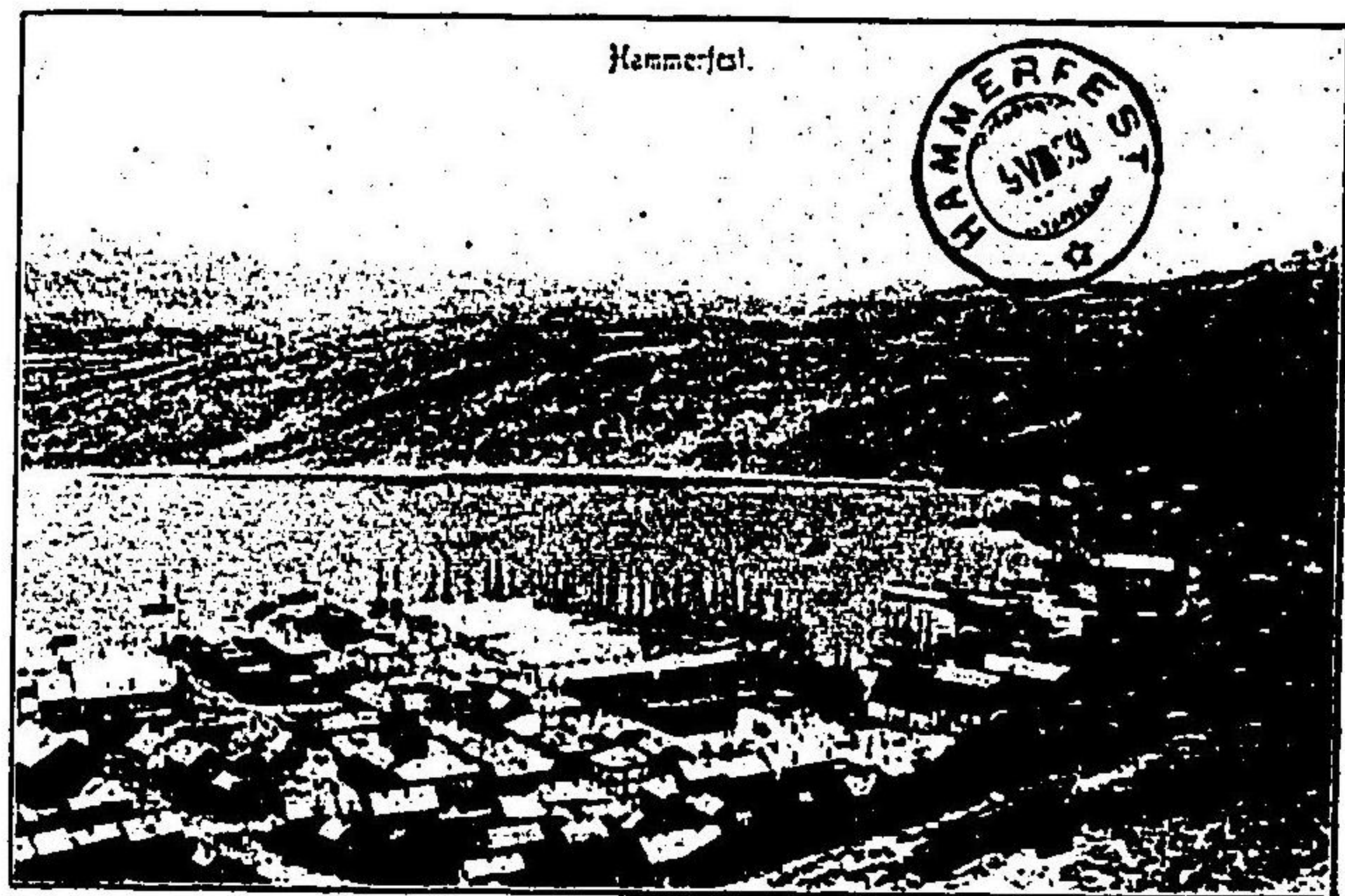
風烈しければにやあらん低き地は雑草生ひ茂りて春の野邊の如く谷間は盛夏にも消え果てぬ氷雪に掩はれ雪の盡くる處は流れて小川となり飛びて瀧と化し海中に落ち往く様遠くより是を望めば海神絲をつむぐ乎と疑はる遙かに大陸を見渡せば四千餘尺の高峰天に聳え聳々たる氷河其麓を回りにて海に及ぶ物すごさ

既にロツペン島(Loppen)を後に見てシムドミリンダ(Sidmyling)の岬も過ぎ航路を東に取り換ふれば北なる島は薄く霧に包まれ草のみ乎海水も緑なるに虹の映りたる飽かぬ景色にこがれつゝハンマーフェスト(Hammerfest)に着にけり

世界最北の市街

世界最北の市街と稱せらるゝハンマーフェスト町は北緯七十度四十分英國グリーンニッチ東經二十三度四十五分半に位し十一月十八日太陽一度南天に没すれば常闇の内に新年を迎へ一月二十三日に到りて漸く初日出を拜み得べき長夜の地第十九世紀の初年には住者僅かに七十七人の寒村

第百四圖



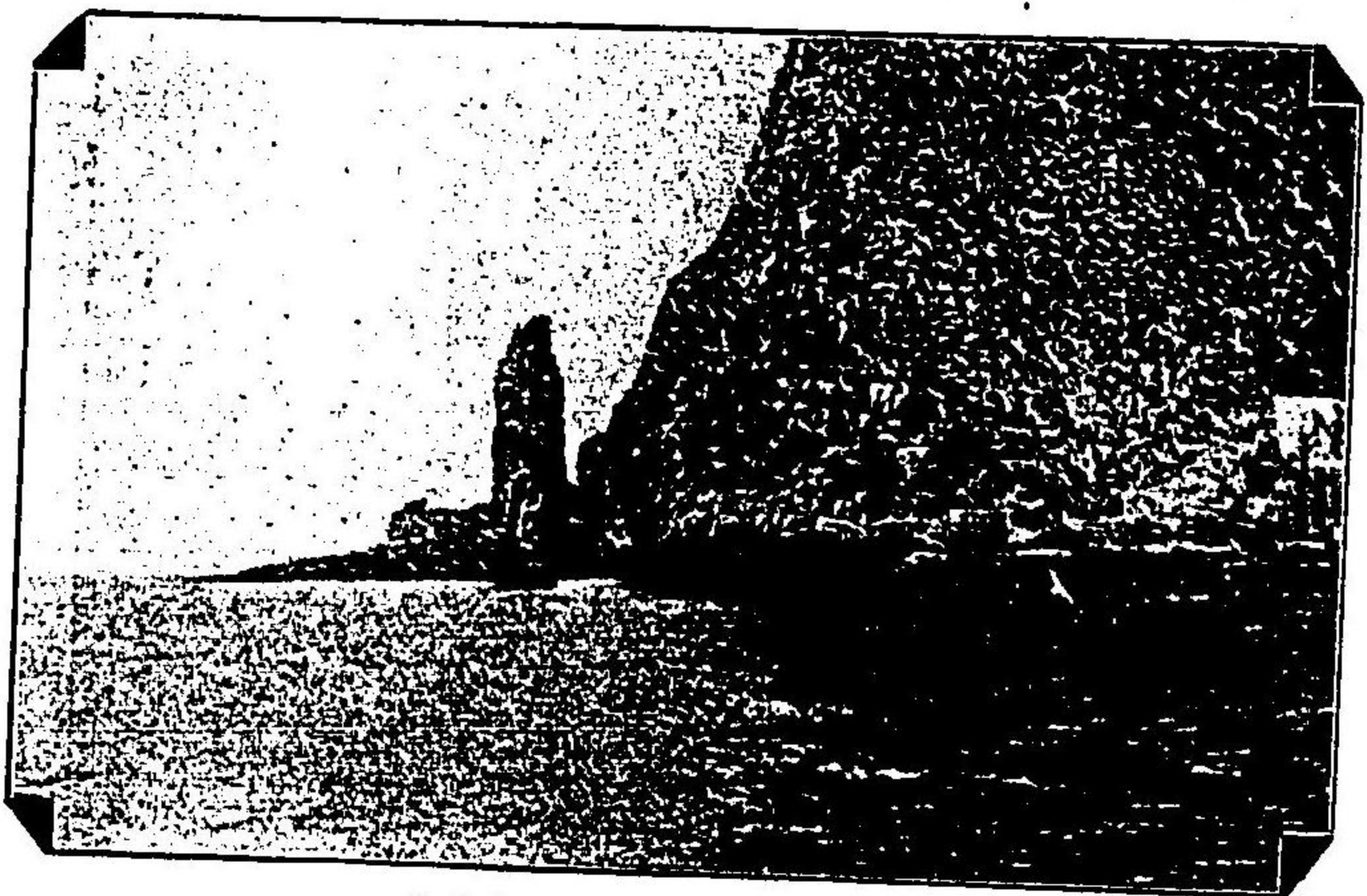
世界最北の市街

世界最北の市街

に過ぎざりしがスカンデナヴィヤの山脈は高くして空吹く風を遮るとも大西洋の沿岸如何で乎文明の潮流に洗はれざるべき電燈燦爛として二千數百の人口を有す蓋し理學の妙用は依て以て宇宙の遠大を短縮するを得べく地區の狭少を擴大するに足るなり沿海の岡陵には絹雲母片岩角閃片岩等露出して甚だ壯觀を極はむ港内の深さは三十尺乃至百尺に達すと乎露國北海岸と交通の要路にあたり北氷洋に赴くもの必ず此港に寄港す

地無草無木の

圖五百第



北極探検隊 前編

也島水て凡は點白るへ掩を壁山

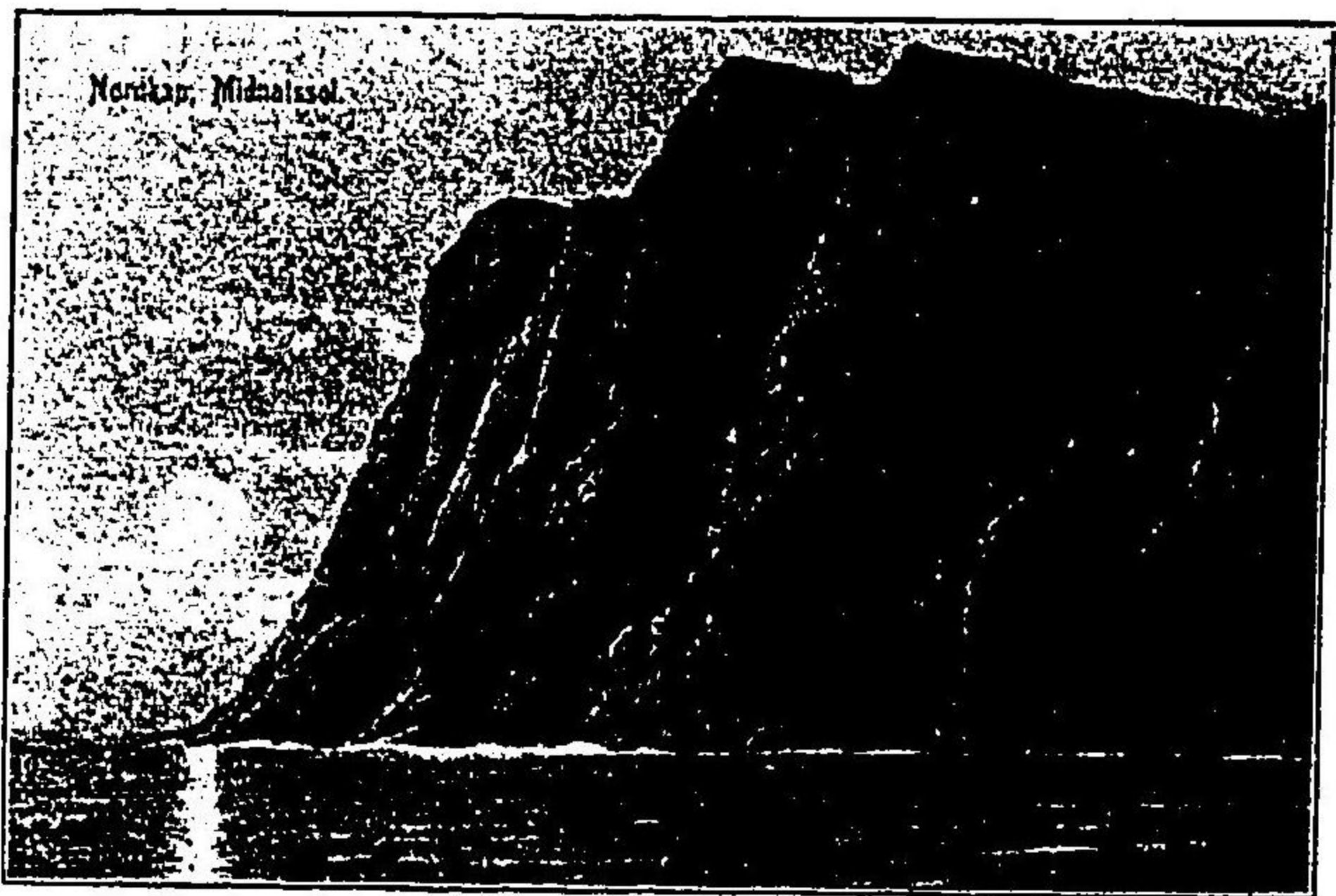
地球最北の市街も過ぎての後は耕作し得ず樹木もなく陸も陸たるの價なければ渡りかねたる夢の世に實にや浮世の業なれば彼處に一人茲に二人さながら浦に住居する漁師はあれども一向に海に頼りてぞ暮らすなる

十五 歐洲之北端

Ural über dem Fichtensamme
Stieg auf, zerriß sen und steil,
Die ungekannte Crustale
Des Nordkaps, schwarz und kalt,
Ein ungeheurer Keil.

白鳥宛も飛雪の如し

圖六百第



歐洲之北端

北 岬

北緯七十一度を越え行きてヒェルムスエ(Hjelmsö)の夕まぐれ物のあいりもみづどりの聲すさまじき折柄に打ち出す空砲の夕の空になりわたる聲も波路に響き合ひて數知れぬ水鳥は飛び立ち散りて虚空に充ちさながら吹雪の如くなり去れど此處を去りては何處にも行くべき方をしらなみも寄せては歸る島なれや間もなく鳥も歸り來て忽ち巖の白くなる様雪の降り積もるに左も似たり
日は北の海に隠れても空暗らからぬ夜半の頃寄せ來る波に洗はれて海

歐洲大陸の北端

岩上に旭日旗を記す

北極探検隊 前編

一九〇

と空との間なる楔の如き形して険はしくも亦凄まじき北岬にぞ着きにける。北緯七十一度十分二十四秒に位するマーゲル島(Margel)の北端にしてマーゲル島(Margel)海峡に依りて歐洲大陸と分かつる。去りながら其地勢に依て是を論ずれば歐洲大陸は此岬に到りて盡きたる者と見做し得べし。其鼻を回りにてホルンキック(Hornkick)海に到れば崩れ落ちたる大小の岩塊は海岸を埋め嘗て茲に寄港せる船舶は各々其船名と年月日とを岩の上に記せり我も亦携へ居りたる日本製を取り出し旭日旗を畫きて上陸の記念となし聲すみわたる谷川に帝國の萬歳を唱ふれば一洞空しき谷の聲巖に響く山彦の海路遙かに消えて行く。

山腹は割合に温暖なるらんスミレ、タンポポ、スギナ、ゴギョウの類生ひ茂りてさながら春の野邊に遊ぶに似たり岩が根にすがり四ツ這ひになりて右に折れ左に曲ること幾十回急坂を登ること約一時間にして平野に出づ一面みな灰黒色の片岩にして純白なる石英の破片處々に點在し遠く是を

第七百圖



(圖縮五の分八の形原)花草の大最るたえ生に岬北

望めば鹿の子まだらに消残りたる氷雪乎と疑はれ凹みたる處には水をたてへ雲霧かすかに空をかくしたる淋しさは靈鬼骨を打つてふ寒林も是には優らじと想はる。北岬の物すごさ皆及び四五の高山植物彼處にも茂り此處にも生え直徑二三分に過ぎざる綺麗なる小花満開して是を採集する婦人霞にまぎれてほの見ゆる有様深野に花を供するの天人乎と疑はる平野を進むこと三十分ばかりにして岬の極端に達す海を抜く一千餘尺の断岸削りたるが如く前には北氷洋

歐洲之北端

一九一

一千餘尺の
断崖削りた
るが如し

北極探検談 前編
一九二
の水滾々として萬里の滄波をたゞみ後にはマーゲル島の高原燈々として
時知らぬ氷雪を載せ西南に天晴れて東北に海静なり断崖稀ならずして深
さ海底に達し片岩は恰も木材を積みたるが如き形態をなして露出す野風
山風吹きすすぶとはあらねども八月十日盛夏の節に際し氣温僅に華氏
四十四度に過ぎずして次第に濃霧を増したりければ急ぎて船に歸り行く

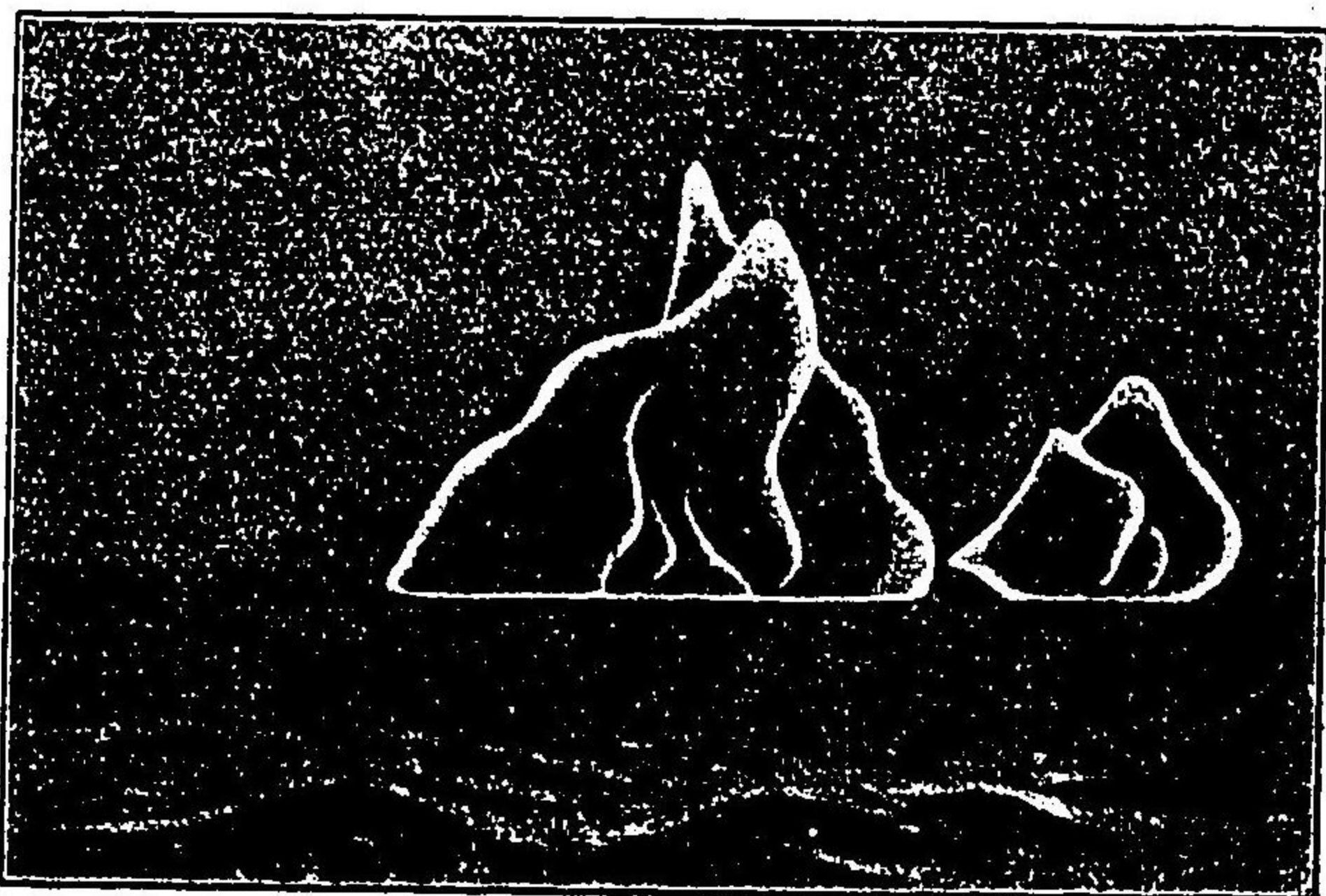
十六 冰山

The hills are shadows, and they flow,
From form to form, and nothing stands,
They melt like mists, the solid lands,
Like clouds they shape themselves and go.

明け暮れの境もなければ夜となく晝となく唯雲水をたよりにて一葉萬

見るは初め
の冰山壯
観！美觀！

第百八圖



冰山

初め見たる冰山

里の船の旅北氷洋を漕ぐ程に天晴れ
て水遠く限りも知らぬ浪の上沖行く
船も絶え果て、島嶼とても見あたら
ず東も西も見渡すかぎり白波だにも
得立たずして前も後も只々萬里の滄
波のみ
水や空そらや水とも見え分かす通
ひて映る遙かの沖にふと見え初めし
一點は雲乎山乎はた水鳥か進むにつ
れて影もかすかに形をあらはしたる
は名にこそは聞け見るとては今を始
めの冰山とや其色は青くして緑を帯
び半透明其壯觀固より下界のものに

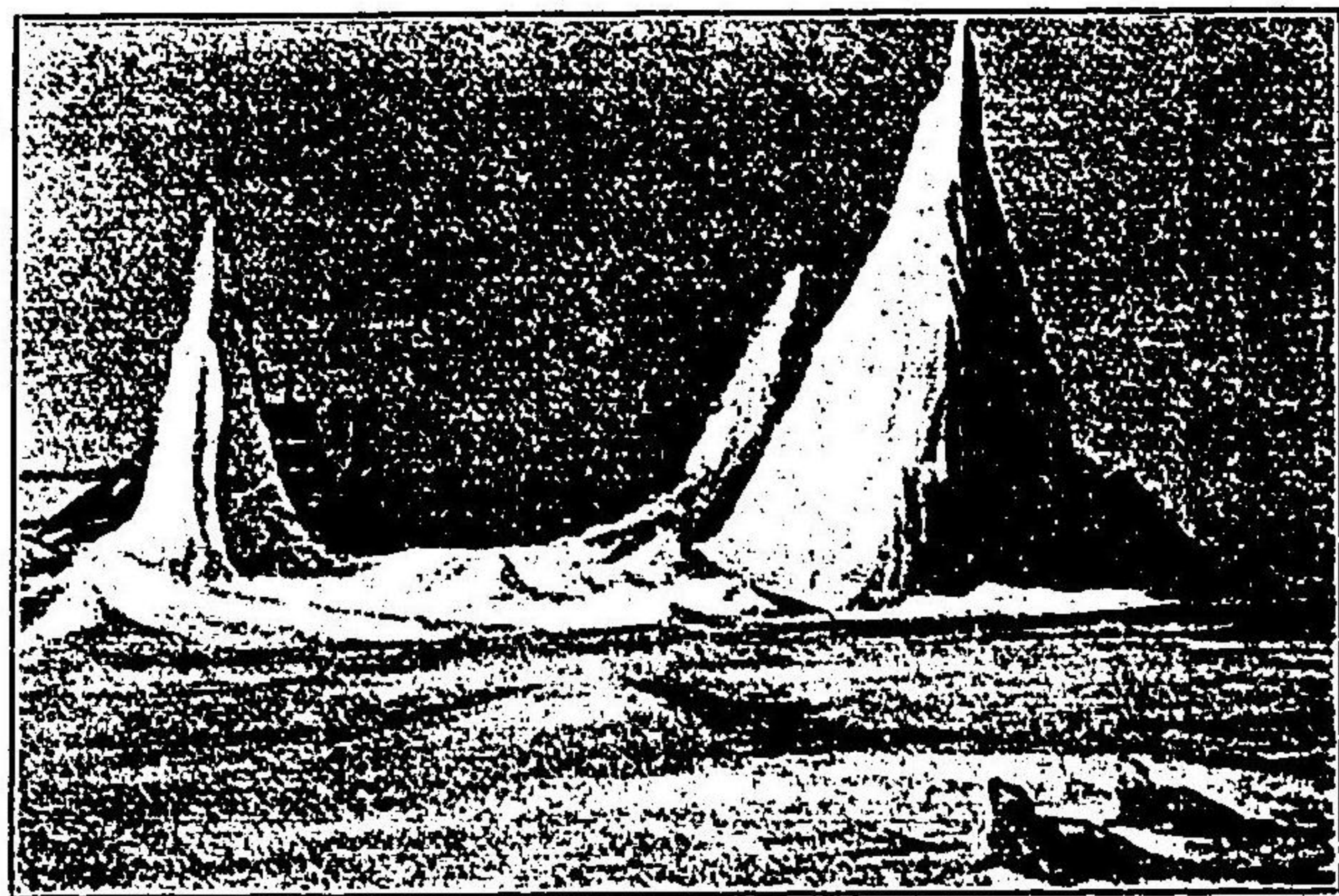
あらず何れの工乎此奇形を刻み誰が家に乎此光澤を染め上げたる霞は薄く夕陽を掩ふて背景に色づくる北氷洋の波に揺られほのくとうつらふ影もうすみどりに行くは山乎過ぐるは船乎しらなみも立つとはなしに時を経て霞にまぎれて失せにけり

水は液體にして方圓の器に從ひ溜りては池となり流れては河となると雖も是を熱して攝氏百度以上に及ばんとすれば直に化して蒸汽となり宇宙に飛散し若し又零度以下に冷さんとすれば氷結して固體となる諸行元來無常未來永々の流轉何物乎此三態に變遷せざる唯夫れ物質は不生不滅なるが故に其質量は不増不減なりと雖も其體積は不増にあらず不減にあらず千差萬別にして一以て是を律すべきにあらず

例へば八升の水凝結すれば九升の水となり従て九升の水は八升の水と其質量相等しく重さも亦等し此の故にパスカルの法則に依り九升の水塊を水中に投ずれば其内の八升は水中に沈みて水と平均し残りの一升は水

不生不滅不
増不減

第 百 九 圖



氷山

面を破りて空中に突出す海水は鹽分を含み居るが故に清水よりも重く其割合は海洋の位置に依りて一様ならざるは云ふを俟たざる事ながら海水大と水との比重は約八と七との割合に當るものなれば海中に浮べる氷山は全體の八分の一を波上にあらはすのみ残り八分の七は水中に隠れ居るものなるを知る

然るに水面内に在る氷山の根は深く海底に向へる乎廣く四方に擴がれる乎は固より知るべきにあらねば是に近寄るは船底を破るの憂あるのみ

ならず波に漂ひて流れ居る内に空氣の温度より海水の温度高き海に到れば内部は早く解くるなるべく若し部分に依りて氷解の速度同じからざる場合には平均を失ひて轟然として全山轉覆し怒濤を起し渦を作り海上の萬物を呑み一葉の船舶素より逃れ得べきにあらず

一場の物語

今は五十餘年の昔ハンマーフェストに一人の漁夫ありけりアンダーゼン(Andersen)とてデンマーク國の生れなりと乎實にや浮世の業なれば唯一帆の風にまかせ釣のいとまもなみの上海路はるかに漕ぎ行きけるに餘多の獲物を積みたる露船に會ひて思ふ様渡り兼ねたる夢の世に買ひ取らんより奪ひ取る方易からんと話にて露人を刺し殺し積み荷を奪ひて漕ぎ歸らんとせる程に其知人にてトロムスエに住へるスチウエル(Schueler)と云ふもの圖らずも波に漂へる露船を認めて其内に入りたるに露人の刺されたる話にアンダーゼンの名が刻まれ居るを見知りければ沖合にてアンダーゼンに合ひたる折夫れとなく波に漂ひ居たる露船の話となしたりけり

アンダーゼンは己が罪のあらはれん事を恐れ私にスチウエルの小舟を破りて逃げ歸り奪ひ取りたる獲物を賣り拂ひスチウエルは不幸にして破船せる有様を眞らしく妻子に物がたり多少の資金を是に與へて友情の切なるを世上に誇り居りたりけるがスチウエルは破れたる船に取付き波間に漂ひ居る内に他の漁士に救はれ無事に歸りてアンダーゼンの悪事残らず世上に知れ渡りたるも此の折は既に氏が再び航海の途に就きたる後なりけり

斯くてアンダーゼンは北氷洋遙かの沖に漕ぎ行きて暫らく滞在せる内に圖らずも寄せ来る氷に閉ぢ込められて漕ぎ戻る事も叶はずなりければ舟を去りて氷の上をさまよひ最も高き氷山の絶頂に登りて沖漕ぐ船や有る何れの向きに海や開けると四方を眺め身を救ふべき道を探がし居る程にあな恐しや山は震動海も鳴り氷山忽ち海中に倒れ罪深きアンダーゼンは底知れぬ奈落に沈み行けりと乎今尙紙上にも見え世の人々も因果の物

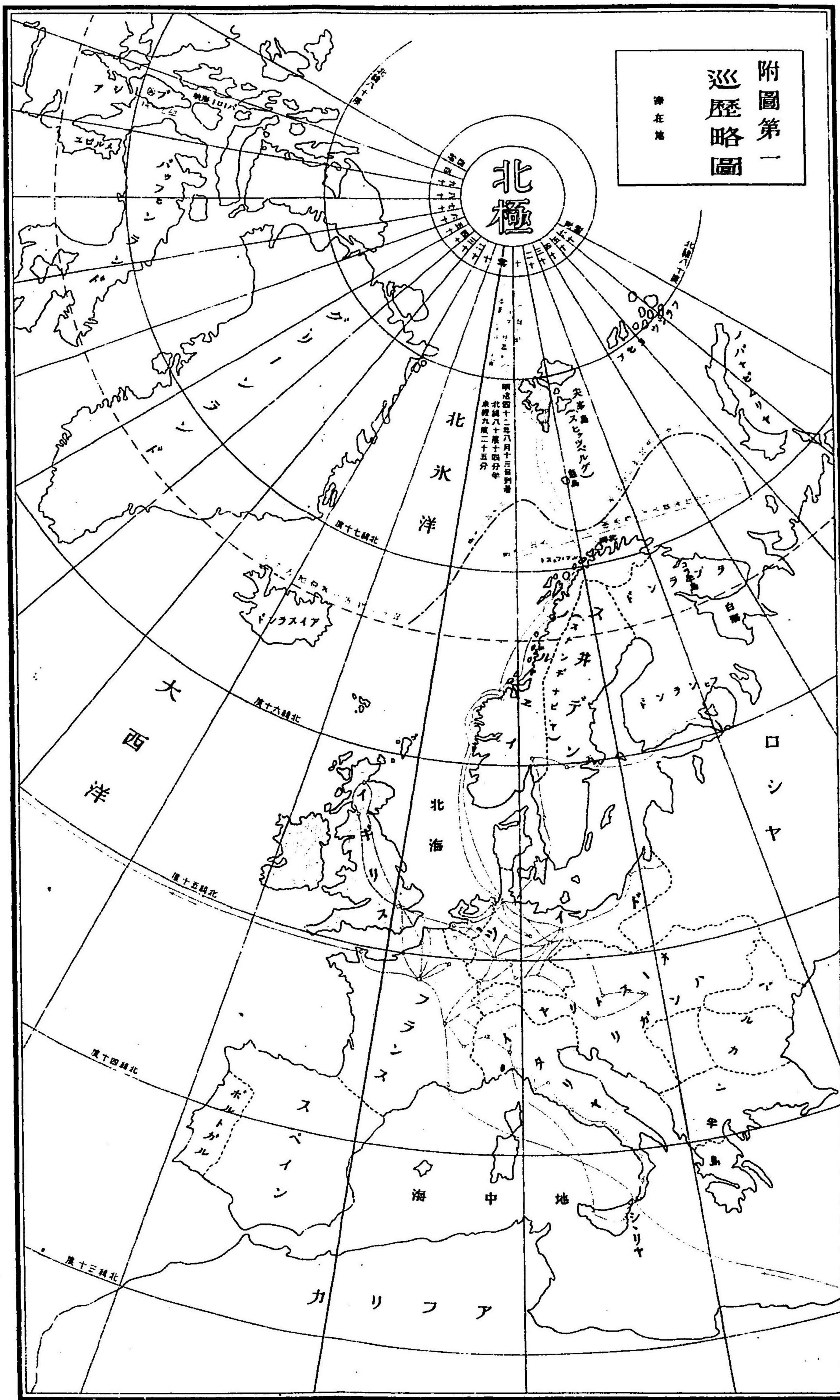
氷山

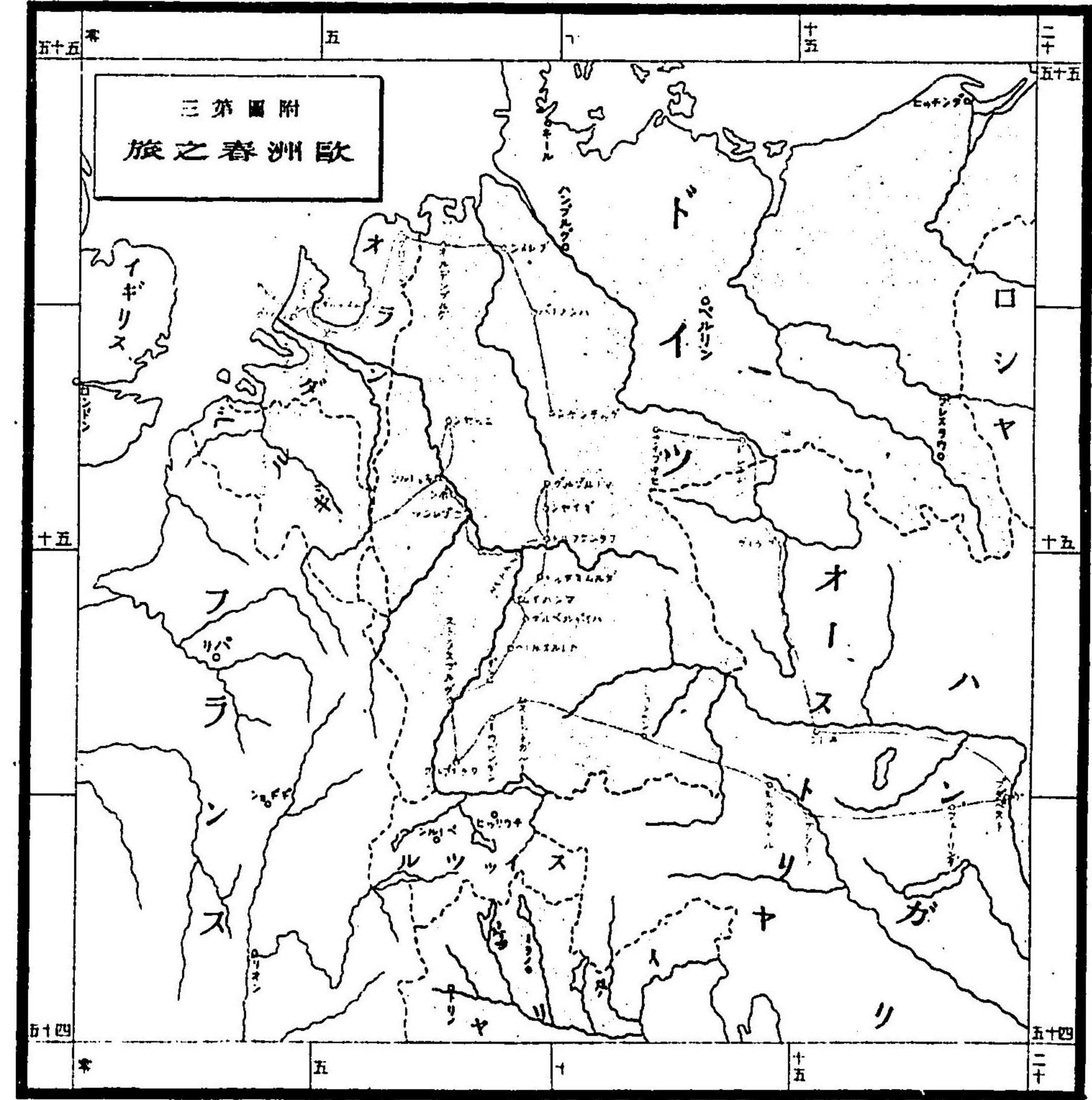
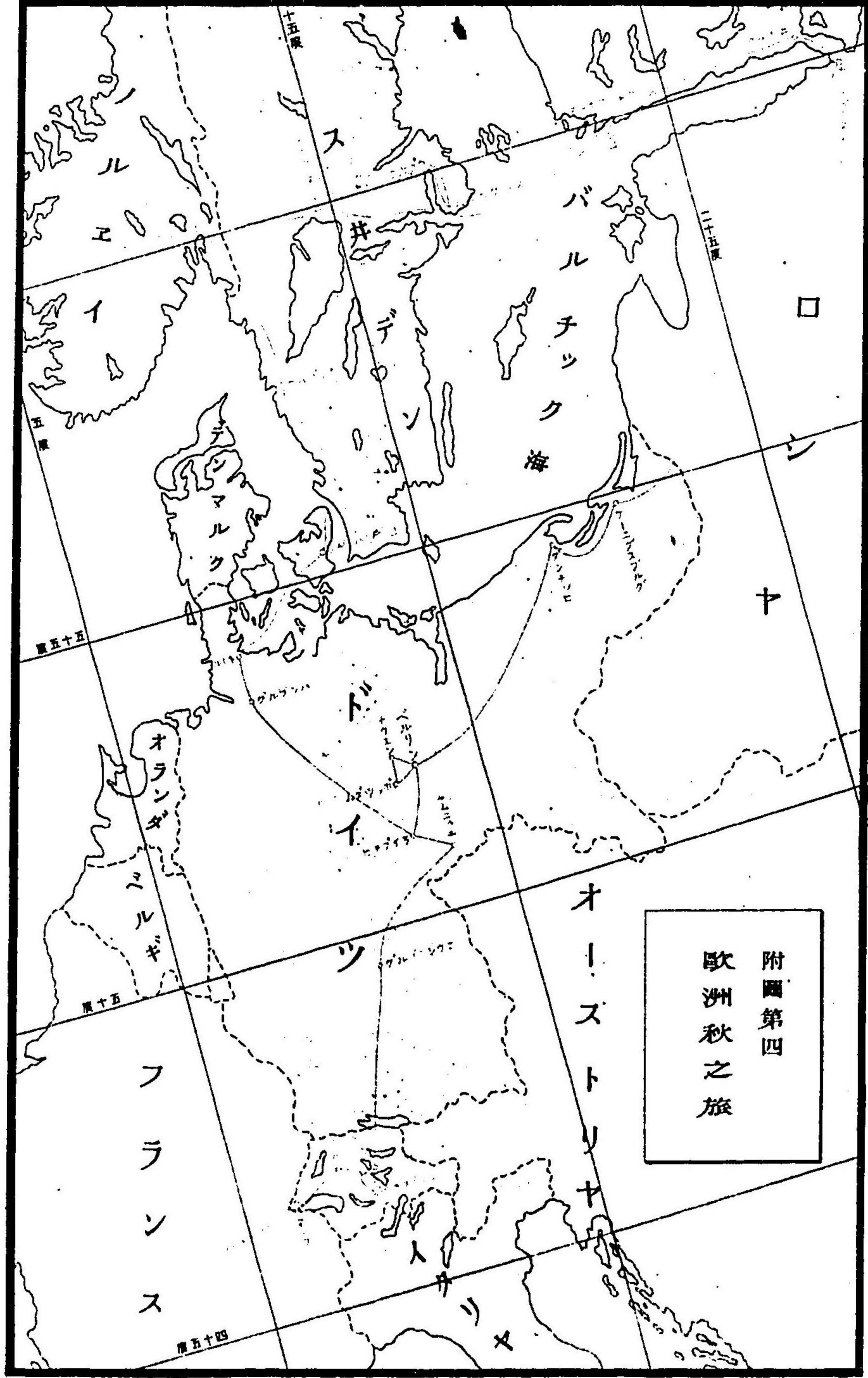
語を語りつげどアンダーゼンの哀なる行く末は誰乎是を見知りて世上に告げたる者ぞ

北極探検談 前編終

附圖第一
巡歴略圖

所在地





明治四十四年九月廿三日發行

(北極探前編)

(不許複製)

定價金九拾錢



著者 日下部四郎太

發行者 東京市日本橋區本町三丁目八番地 大橋新太郎

印刷者 東京市小石川區久堅町百〇八番地 水谷景長

印刷所 東京市小石川區久堅町百〇八番地 博文館印刷所

發行所

東京市日本橋區本町三丁目

博文館

〔招待券金口蓋紙水三〇枚
四邊部紙幣本冊二六二〇枚〕

探検 實記
地中の秘密

江見水蔭君著

蠻勇の力を以て、地中の秘密を發
くべく深く貝層の間に掘入りたる
著者の探検實記の掘入りたる
記なり。其の發掘の壯烈
なる、遺物の怪奇なる、
其在の表は、日本先住
民の生活の狀態は、
紙面に活躍せり。然れば、
優に當代の奇書たるを失はず。考
記たる以外に、家庭の好讀物とし
て、之を江湖に薦む。

全一冊菊判 正 五拾八錢
三百廿六頁 價 五拾八錢
（寫真版數） 郵 稅 金 八 錢

○ 博文館發行

やまと新聞記者 岡雷平君著

南洋 珊瑚島探檢記

全一冊菊半裁判
紙數三百十六頁
正 價 金 參 拾 錢
郵 稅 金 四 錢

（珍奇寫真八枚挿入）

立耳君の序に曰く「此の本の標題を見た
る人は或は例の見た様な法螺か若くは圖書
仕立の襪襪かとおもつであらう併し一度開
見たら意外に驚くであらう書中に記する所は悉く
著者が親しく經歷した實事實情に非ざるはな
味と實益に富んで居る」云々
讀賣新聞記者 松川木公君著

樺太探檢記

全一冊菊判布裝
紙數百八十二頁
正 價 金 卅 八 錢
郵 稅 金 六 錢

（珍奇寫真八枚挿入）

是れ著者が樺太を踏破して其真相を描ける
書なり書中寒山あり氷河あり高嶽アイヌあり氷
の木乃あり記事奇に富み文に趣味多し秋地の秘
密を知らんと欲する人は必ず此少壯の勇者が齎せ
る此一巻を求めざるべからず

關 東 の 山 水

大町桂月君著

全一冊裝判特製
風景寫真卅餘圖 正 價 金 壹 圓
紙數五百四十頁 小包 料 金 八 錢

行雲流水

正 價 卅 錢
郵 稅 四 錢

○ 博文館發行

坪谷水哉著

山 水 行 脚

全一冊四六判
洋布上製裝本
紙數四百九十四頁

（最新刊）正 價 金 九 拾 錢 郵 稅 八 錢

（風俗風景寫真版十七枚外に）
（本文刷込漫畫數十個挿入）

一技の筆 一個の寫真機とを友とし、暇が有
つても無くても、毎年數回必ず山水
の間に漫遊し、殆んど旅行狂と呼べる、著者が、
過去十數年間の紀行を集めたるは本書なり。五畿
八道は言ふに及ばず、琉球、臺灣の隅々まで、普
ねく駆け廻りたる脚と筆との達者な上に、挿入せ
る百餘の寫真と相俟ち、其時その光景を寫し出し
て實地に睹るが如し。失敗あり滑稽あり冒險記あ
り。趣味實益兼ね備へ、旅行にも臥遊にも、最好
の友として推薦す。

世界現勢地圖

帝國教育會編

「程度に對しては、毎一時間の時間を掲げて本邦と各地との時差を知るに便ならしめ、郵船航路、海底電線及び鐵道線路を詳細に記し、大使館、公使館、領事館の所在地には特に視目を引くべく、川流し又陸上の山脈、河流等は極て詳細に描き、又海面には主要なる海流風向、風域、流水の限界等をも網羅したれば、一幅披覽の下世界の光景歴々として掌に指すが如し」

附錄 山高、海深、大河、延長、流域面積、列國面積比較、人口比較、列國貿易比較、軍備比較、朝鮮及南滿洲精圖等

體裁 精巧銅刻着色ニス引懸圖折圖調製亦道

定價 軸立 金六圓 荷造料 拾五錢 軸入 金五圓 拾六錢

地質學

理學士 佐藤傳藏君著

(新刊三百三十六頁)

我地球は會て如何なる有様を呈せしや、現今如何なる有様に於て存在せしや、其由來如何、其構造如何等を説き盡したるを地質學となす。されば山岳の以て生ずる所以、泉河の以て流る、所以、鑛物の以て生ずる所以、岩石の以て産する所以等は、此書に依て始めて明かにするを得べし。

理學士 吉川弟彦君著

(新刊三百二十八頁)

地文學

地文學の書從來上梓せられたるもの少なからず、而も此程度以上の學識ある士の參考に資するものなきは實に斯學の爲に遺憾とする所なり、本書は即ち此缺點を補はんが爲、簡潔なる筆を以て其精を抜き其粹を汲み、地文學に關する諸現象の概要を述べられたるものなり。

博文館發行

大日本地誌

理學士 佐藤傳藏君 共著

理學士 山崎直方君 著

齋藤文學士 大塚文學士 補

大日向理學士 田山花袋君 助

大日本地誌は全く在來の地誌と其目的方針を異にし、地文、人文の關係を説くや極めて詳密極めて明晰なり、其の體式は一に歐洲最新式の地理書を準りし、每編美麗なる精密地圖萬載版數多し、挿入し、各地方の山系、水系、湖澤、河等、の形勢及び氣象を詳述し、又各地の史蹟を地理的に描寫して、古今興亡の沿革を明にし、其の他行政司法軍事教育宗教交通の狀況を録する、詳かに産業部に於ては農工業商業、鑛業、林業の六部に分類して、地方の特産を記述し、各地の名勝古蹟は案より總て其材料の豊富なる調査の精確なる、卷冊の活潑なる製本の美麗なる一として、問然する所なき本邦未出の大地理書なり。

全拾卷 各冊索引、洋布紙函入裝釘、總紙數約壹萬頁、地圖及寫版數十葉、挿入

(既刊書名)

- 第一卷 ● **關東** (方面地圖八枚) 正價貳圓五拾錢 小包料拾六錢
- 第二卷 ● **奧羽** (方面地圖八枚) 正價貳圓五拾錢 小包料拾六錢
- 第三卷 ● **中部** (方面地圖九枚) 正價貳圓五拾錢 小包料拾六錢
- 第四卷 ● **近畿** (方面地圖六枚) 正價金貳圓 小包料拾六錢
- 第五卷 ● **北陸** (方面地圖二枚) 正價貳圓五拾錢 小包料拾六錢
- 第六卷 ● **中國** (方面地圖一、二枚) 正價貳圓五拾錢 小包料拾六錢
- 第七卷 ● **四國** (方面地圖四枚) 正價貳圓五拾錢 小包料拾六錢
- 第八卷 ● **九州** (方面地圖七枚) 正價金壹圓 小包料拾六錢
- 第九卷 ● **北海道** (方面地圖一、二枚) 正價金壹圓 小包料拾六錢
- 第十卷 ● **琉球及臺灣** (方面地圖一、二枚) 正價金壹圓 小包料拾六錢

博文館發行

文學博士 姊崎正治君著

【五版】

南北朝問題 國體の大義

全一冊四六判
紙數百十二頁

正價金貳拾錢
郵税金四錢

著者自ず、南北朝問題は天が國民特に教育界に與へたる警策なり、國體の大義に基きてその大本を解決せざれば、眞に天の聲を聞く所以にあらず、自ら顧みてその信念を公にし、進んで思想界の覺醒を促す。

法學博士 添田壽一君著

【五版】

破壊思想と救治策

全一冊四六判
洋布上製美本

正價金四拾錢
郵税金六錢

大は宇宙の大勢、外交、内政等より小は生計難、就職難、修身齊家に到る迄現時の社會問題を細大なく拉し來つて精論細説併せて其救治策を明示したるものは本書也。今や我國の思想界は大恐慌、大混亂に陥らんとす。彼の大逆事件に次ぐに南北朝の前途又知るべきのみ。若し此儘に推移せんか。國家や敢て國民全般の必讀書として世に薦む。

醫學博士 二木謙三君
日本女子大學講師 高島平三郎君

校閱 田生正次君著

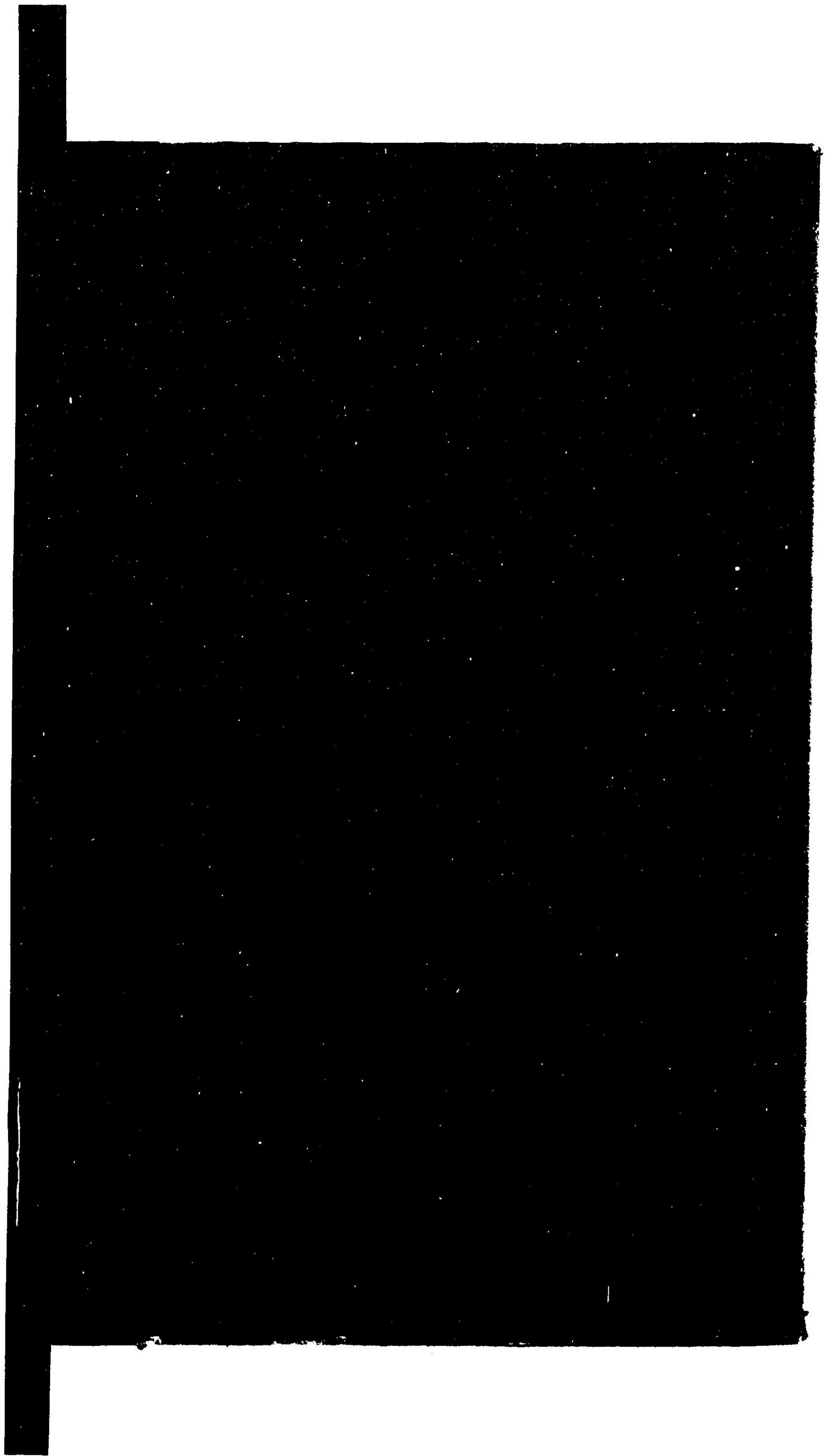
活動的心身修養法

全一冊菊判
紙數二百卅頁

正價金卅八錢
郵税金六錢

本書は著者が十數年間心病と戦ひ暗黒面を脱して光明面に出でたる奮闘史なり。即ち一體兩面の眞理に象り心身相關の理法の上に心と身との交叉點より割出したる實踐的修養法にして通讀中知らず識らず心身の調和を得胸中の煩悶苦痛を去りて奮闘的勇子たらしめ長生保養の福音たらん事を期せり。

334
135



334
135

026992-001-3

334-135

北極探検談

日下部 四郎太/著

M44, 45

ADH-0012



